

令和5年度事業計画

【現状と課題】

令和4年度のいわて花巻空港の利用者数は、380,706人(前年度比184.9%/令和元年度比78.5%)であり、令和3年度実績は上回ったものの、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度の水準には戻っていない状況にある。

一方、今年の1月には、アメリカのニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2023年に行くべき52か所」で盛岡市がロンドンに次ぐ2番目に紹介されたことで、国内外に広く岩手をPRする好機となっている。

1 国内線について

令和4年度の国内定期便の利用実績は372,746人となり、前年度(200,410人)比186.0%、172,336人の増加となったが、令和元年度(438,405人)比85.0%、65,659人の減少となった。

依然としてコロナの収束には至っていないものの、感染対策と社会経済活動の両立に向けた動きが進み、行動制限の緩和や国の観光需要喚起策(全国旅行支援)が実施されたこと等により、年度後半には回復傾向がみられたところ。

今後は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけ変更に伴う人流の増加や、ニューヨーク・タイムズ紙掲載の効果による観光需要の拡大が予測されることから、国内定期便の早期需要回復及び路線維持を図るため、ビジネス・観光の両面で更なる利用促進を図る必要がある。

2 国際線について

令和2・3年度に引き続き運航がなかったものの、日本及び就航先において水際対策の緩和が進んだことから、航空会社に対し運航再開を働きかけるとともに、花巻空港における受入態勢を整備し、台北線について令和5年5月10日から運航再開されている。

今後は、再開した台北線の安定的かつ持続的な運航と、上海線の早期運航再開やその他国際線(チャーター便含む)の運航に向けた取組を進める必要がある。

こうした状況を踏まえ、令和5年度は次の事業に重点的に取り組んでいく。

重点方針

1 国内線利用促進事業

- 定期便の**早期需要回復・路線維持**に向け、航空会社等と連携し、双方向の利用者数が増加するよう利用促進に取り組む。
- コロナ禍を転機として増加傾向にある個人利用や、利用が落ち込む冬季の更なる需要喚起が図られるよう、旅行商品造成支援をはじめ、メディア等を活用した**路線プロモーション**などの強化に取り組む。
- 新たな需要の掘り起こしに向け、県内周遊商品による誘客促進や、企業・団体等によるビジネス利用の促進を図る。

2 国際線利用促進事業

- **台北線**については、長期間の運休を経たことを踏まえ、航空会社や旅行会社との連携強化を図るとともに、まずは**インバウンド・アウトバウンド双方の需要回復**に向けて、プロモーションを強化するなど利用促進に取り組む。
- **上海線**については、中国国内の社会情勢や航空会社の動向等を注視しつつ、航空会社及び旅行会社に対して**早期運航再開**を働きかけていく。
- 国際線の路線拡大に向け、実績のある香港やタイなどを中心に、航空会社や旅行会社に対し、国際線（チャーター便含む）の運航を働きかけていく。